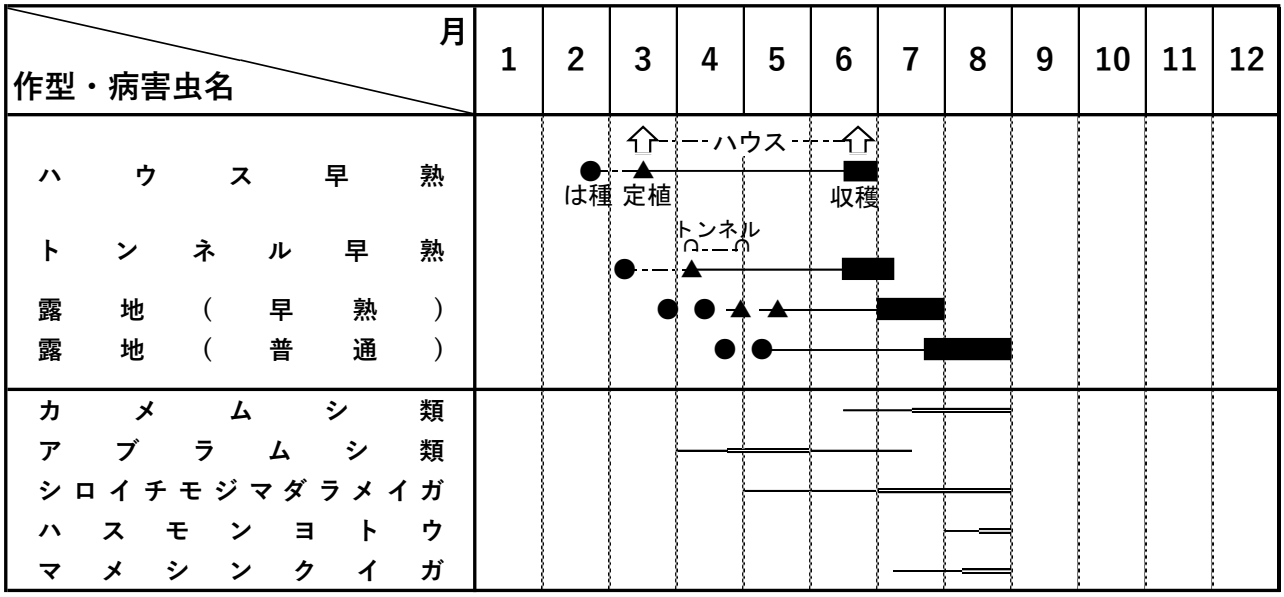
２　豆類（未成熟）

えだまめ

農薬取締法上、「えだまめ」は「だいず」とは別の作物である。（だいずの項　参照）
「えだまめ」には、「えだまめ」か「豆類（未成熟）」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。



ウイルス病

留意事項

1 種子、アブラムシ類により伝染する。

防除方法

1 健全種子を用いる。
2 子葉展開時から有翅アブラムシ類の防除に努める。（アブラムシ類の項　参照）

カメムシ類

留意事項

1 スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤は同一成分ジノテフランを含み、総使用回数は3回以内（但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は合計2回以内）。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤　＜４Ａ＞【2000倍　7日／2回】
・トレボン乳剤　＜３Ａ＞【1000倍　14日／2回】
・スミチオン乳剤　＜１Ｂ＞【1000倍　21日／4回】
・カスケード乳剤　＜１５＞【4000倍　前日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

アブラムシ類

留意事項

1 アドマイヤー1粒剤の成分イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数3回以内（但し、定植時及びは種時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内）。

防除方法

1 シルバーポリフィルムでマルチングし、アブラムシ類の飛来を回避する。
2 生育初期に寒冷しゃのトンネル栽培を行う。
3 ほ場内外の除草を徹底する。
4 下記の薬剤を施用する。
・アドマイヤー1粒剤 ＜４Ａ＞
【3kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】または
【2g／植穴（但し、6kg／10aまで）　植穴土壌混和　定植時／1回】
5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・スミチオン乳剤 ＜１Ｂ＞【1000～2000倍　21日／4回】
・アディオン乳剤 ＜３Ａ＞【3000倍　前日／3回】
・ベネビアOD ＜２８＞【2000～4000倍　前日／3回】
・ウララDF ＜２９＞【2000～4000倍　7日／2回】

シロイチモジマダラメイガ

留意事項

1 食入した幼虫に対しては効果がないので、食入防止に重点を置く。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・トレボン乳剤 ＜３Ａ＞【1000倍　14日／2回】
・スミチオン乳剤 ＜１Ｂ＞【1000倍　21日／4回】

ハスモンヨトウ

留意事項

1 老齢幼虫に対する効果は劣るので、若齢幼虫期に防除する。
2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・トレボン乳剤 ＜３Ａ＞【1000～2000倍　14日／2回】
・アファーム乳剤 ＜６＞【1000～2000倍　3日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・グレーシア乳剤　＜３０＞【2000～3000倍　前日／2回】
・アクセルフロアブル　＜２２Ｂ＞【1000～2000倍　前日／3回】

マメシンクイガ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇　＜４Ａ＞【4000倍　7日／3回】
・グレーシア乳剤　＜３０＞【2000～3000倍　前日／2回】
・ベネビアOD　＜２８＞【2000～4000倍　前日／3回】
・アディオン乳剤　＜３Ａ＞【3000倍　前日／3回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。